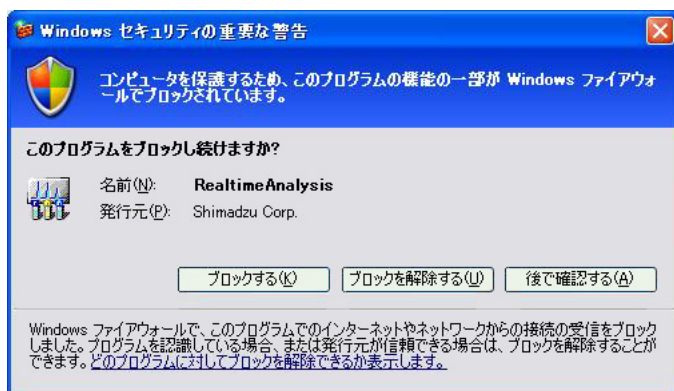


LCsolution における Windows®XP SP2 ファイアウォール設定方法

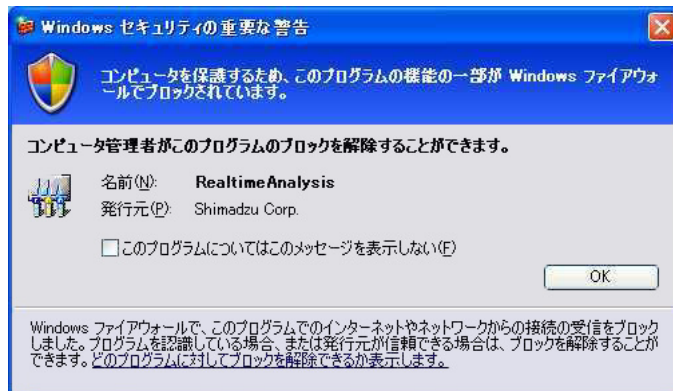
1. はじめに

CBM-20A/-20Alite, SPD-M20A 使用で、Ethernet 接続されている場合のみ、設定が必要になります。

WindowsXP SP2 をインストールされますと、LCsolution において、環境設定で、Ethernet 接続されている CBM-20A/-20Alite, SPD-M20A のネットワーク装置一覧を表示した際、次の警告画面が出ます。(現在は、装置一覧が出ますが、今後出ないことが予想されます。)



管理者権限の場合



制限ユーザーの場合

これらの問題を解決する手順を、以下にご説明いたします。

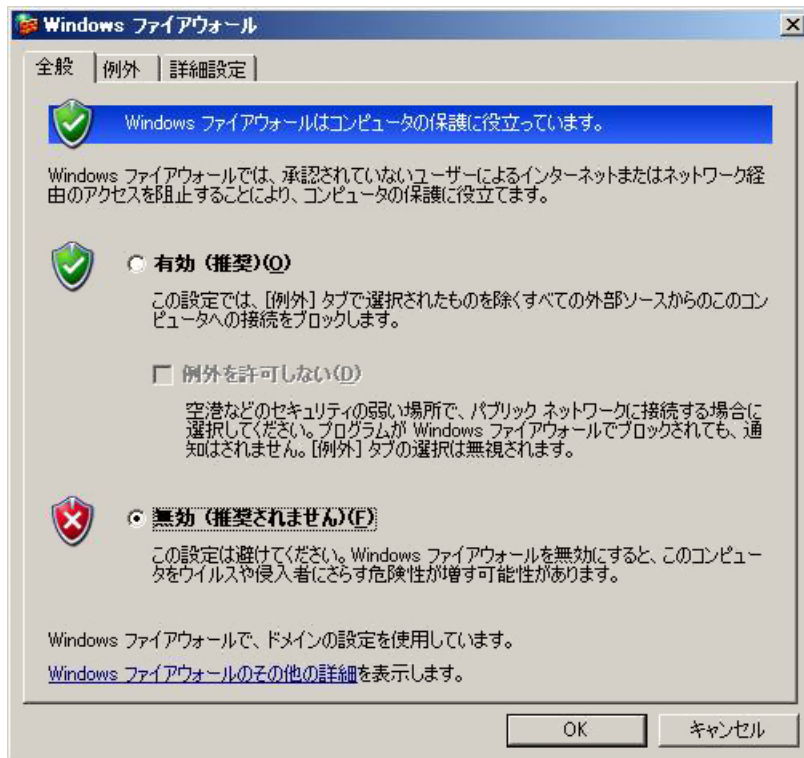
1. PCのファイアウォールの設定を無効にする
PC が置かれた職場の LAN がすでにファイアウォールに守られている場合に、個々の PC の WindowsXP ファイアウォール機能を無効にする場合です
2. PCのファイアウォールの設定は有効にしながら例外の設定を行う
セキュリティを高めるために、PC の WindowsXP ファイアウォール機能を有効にしながら、サービスを行うプログラムごとに設定を行う場合です。

2. ファイアウォールを設定しない場合

企業でご使用される場合、ほとんどの企業では、すでにファイアウォールが構築されているはずですが。こういう場面においては、基本的に Windows ファイアウォールを設定する必要はないものと考えます (Windows ファイアウォールは個人がルータなしで直接インターネット接続した場合の攻撃を防ぐためのものであり、ルータが存在する場合は、ルータでファイアウォールを設定し、個々の PC でファイアウォールを設定する必要はありません)。そこで、ファイアウォールの設定を無効にし、WindowsXP SP2 による動作不良を回避します。以下は、その手順です。

【ファイアウォールの設定を無効にする方法】

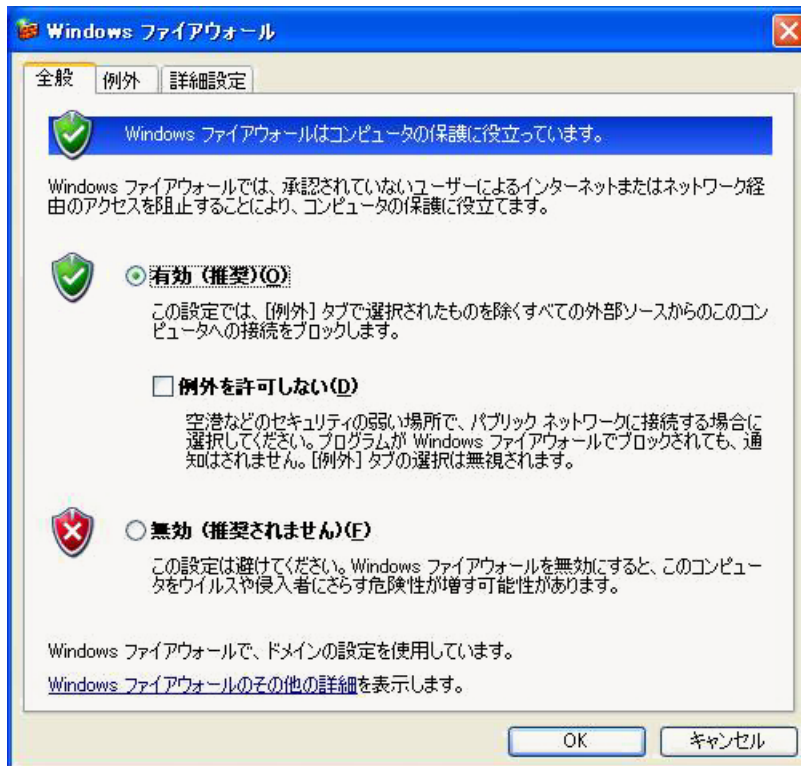
- 1) Administrator で Windows にログオンする。
- 2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。
- 3) Windows ファイアウォールを開く。
(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてから Windows ファイアウォールを開いてください)
- 4) [全般]タブで「無効」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンを押す。



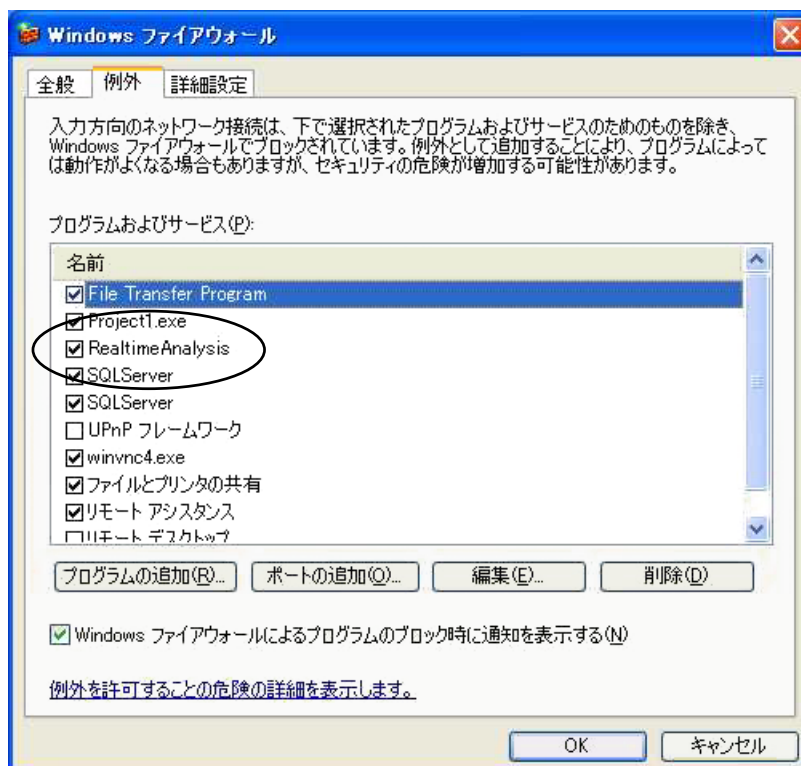
3. ファイアウォールを設定する場合

Windows ファイアウォールをご使用される場合は、WindowsXP のファイアウォールを設定するとともに、サービスを提供するプログラムごとに設定を行う必要があります。なお、Windows が提供するネットワークサービス機能（ファイル共有など）については、そのサービスを設定した時点で必要な設定を行いますので、標準的な機能については設定の必要性はありません。

- 1) Administrator で Windows にログオンする。
- 2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。
- 3) Windows ファイアウォールを開く。
(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてから Windows ファイアウォールを開いてください)
- 4) [全般] タブで「有効」のラジオボタンを選択し、「例外を許可しない」のチェックを外します。

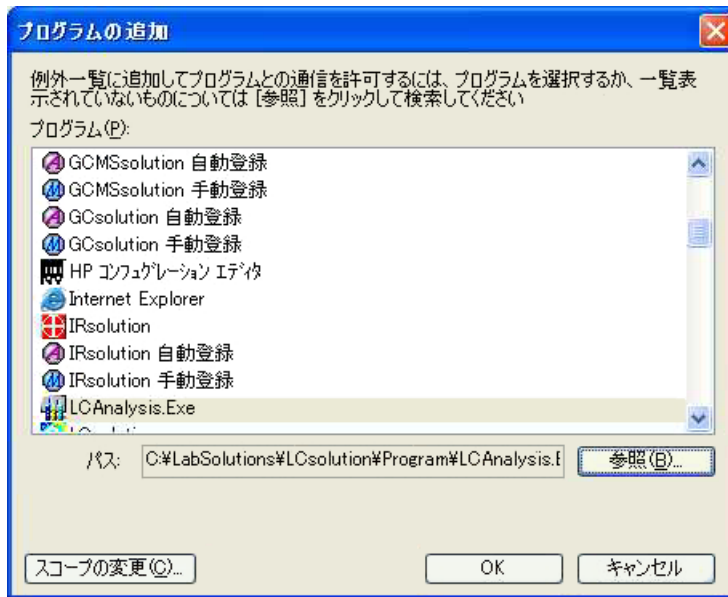


- 5) [例外]タブで、プログラム及びサービスに”RealtimeAnalysis”があるか確認します。あればチェックを入れた状態で[OK]ボタンを押し、Windows ファイアウォールを閉じます。

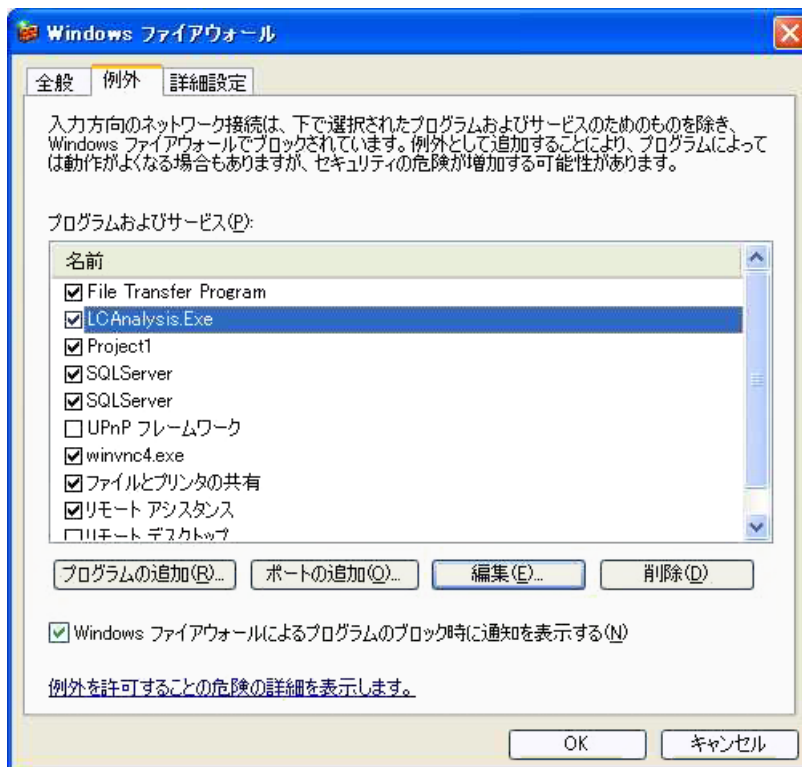


無ければ、以下の設定を行います。

- 6) [プログラムの追加]ボタンを押し、[参照]ボタンを押し、
 C:\¥LabSolutions¥LCsolution¥Program¥LCAnalysis.Exe を追加します。
 (C:\¥は、インストールしたドライブなどにより変わります)



7) “LCAnalysis.Exe”にチェックを入れた状態で、[OK]ボタンを押し、Windows ファイアウォールを閉じます。



以上。